

- 1 **7** 10点
データを小さい順に並べると3, 5, 7, 9, 11。5個のデータの中央値は、中央に位置する3番目の値である7です。
- 2 **8** 10点
平均値 = $(4 + 6 + 8 + 10 + 12) \div 5 = 40 \div 5 = 8$ 。
- 3 **5** 10点
データを小さい順に並べると2, 4, 6, 8。4個のデータの中央値は、中央の2つの値（4と6）の平均。 $(4 + 6) \div 2 = 5$ 。
- 4 **2.5** 10点
中央値は4.5（4と5の平均）。下半分のデータは1, 2, 3, 4で、その中央値は $(2 + 3) \div 2 = 2.5$ 。
- 5 **中央値 = 75点、平均値 = 75.5点** 10点
データ昇順: 60, 65, 70, 70, 75, 75, 80, 85, 85, 90。5番目と6番目が共に75で中央値=75。合計= $60 + 65 + 70 + 70 + 75 + 75 + 80 + 85 + 85 + 90 = 755$ 。平均= $755 \div 10 = 75.5$ 。
- 6 **最小値、第1四分位数、中央値（第2四分位数）、第3四分位数、最大値** 10点
箱ひげ図は、データの分布を視覚的に表すために、5つの統計量を用います。これらは「5数要約」と呼ばれます。
- 7 **中央値：セットA = 30、セットB = 30。範囲：セットA = 20、セットB = 40** 10点
両セットの中央値はともに30です。範囲（最大値 - 最小値）は、セットAは $40 - 20 = 20$ 、セットBは $50 - 10 = 40$ です。セットBの方がデータのばらつきが大きいです。
- 8 **1.8** 10点
8個のデータの中央値は、中央の2つ（4番目と5番目）の値の平均。4番目は7、5番目は9。 $(7 + 9) \div 2 = 8$ 。
- 9 **ウ. 四分位範囲** 10点
平均値や最頻値はデータの代表値。散らばり（ばらつき）の度合いを表すには「範囲」や「四分位範囲」を用いる。
- 10 **イ. クラスB** 10点
範囲が大きい方がデータの散らばりが大きい。クラスBの範囲50点の方がクラスAの30点より大きいため、クラスBの方が散らばりが大きい。